

## 毛利三代実録の編さんについて ～事業開始から200年～

### はじめに

「毛利三代実録」(毛利家文庫3公統240) 31冊 52巻  
「毛利三代実録考証」(同上3公統241) 124冊 123巻と「毛利三代実録編輯係員人名録」

毛利三代とは、毛利元就・隆元・輝元を指す それぞれの事蹟をまとめたもの  
元就誕生の明応6年(1497)～輝元死去の寛永2年(1625)を扱う  
明治26年(1893)に完成

綱文 実録の本文  
考証 実録の根拠となる資料  
論断 編者の解説・註記

### 1 実録編さん事業について

#### 1-1 実録編さんの端緒

文政6年(1823)2月

10代藩主毛利斉熙が、密用方・周布五郎左衛門と御用所記録方・斉藤彦右衛門に  
「元就公 隆元公 輝元公御三代之御事蹟御記録編集御用掛」を命じる

#### 1-2 実録編さんの目的

世上へ流布する「偽書」の存在

「毛利家記」(長府系) 毛利秀元を正統とする → 幕府がこれを参考に行っている  
「陰徳太平記」(岩国系) 脚色・虚構が多い

毛利家の歴史が歪曲されている、という萩藩の認識

### 2 編さんの中止と再開

#### 2-1 編さんの中止

半年後、担当の周布が病死 事業も中止 「秘局官員録」  
事業が継続されなかった理由は不詳

#### 2-2 編さんの再開

天保5年(1834)8月 11代藩主斉元が編さん再開  
「御三霊様御創業御中興之御記録編集」

## 2-3 再開後の変化

### ①編さんの対象・年代

編さん開始当初	再開後
元就・隆元・輝元	→ 元就・輝元・秀就 = 「御三霊様」
寛永2年まで	→ 慶安4年(1651)までへ

②「不容易」御用筋（容易ならざる御用筋）…担当から要望を出す  
天保10年(1839) 内用役所を「洞春寺衆寮」に  
それまでは「獅子の廊下」で、五・十の日に作業

## 3 編さん体制の整備と実務

### 3-1 仕法の制定

「常役所規則」 …就業規則  
「御編集取調方目途」 …調査や編集の目的や方法を示す  
旧分国の調査 …寺社ほか

### 3-2 実録の編さん — 活動のようす

「密局日乗」 毛利家文庫 19 日記 18  
「御三霊様御事蹟御編集掛日記」 毛利家文庫 19 日記 32

## 4 実録の完成

### 4-1 三代実録から四代実録へ

毛利隆元の復活 → 嘉永6(1853)11月の常栄寺住持の進言  
「仰徳様 御三霊様御創業之御記録」と変更  
「仰徳様」 = 元就と「御三霊様」 = 隆元・輝元・秀就

### 4-2 実録の御霊社奉納

文久3(1863) 編さん中止の命令が下される → 密用方が継続を願い出て認められる  
明治3(1870) 御霊社へ「半途ながら一応」奉納 → 「毛利四代実録」として奉納

### 4-3 半途ながらの意味

明治初年の密用方の申し出（「言出控」毛利家文庫9 諸省 241）  
実録の「清撰」（精選）作業中 洞春様(元就)之部以外は奉納には間に合わない

### 4-4 実録の完成

明治9(1876) 毛利四代実録の精選をはじめ  
明治13(1880) 毛利四代実録を毛利三代実録と改称  
三代 元就・隆元・輝元  
明治26(1893) 事業終了 毛利三代実録、毛利三代実録考証の完成

おわりに